

坂田 弥優さん

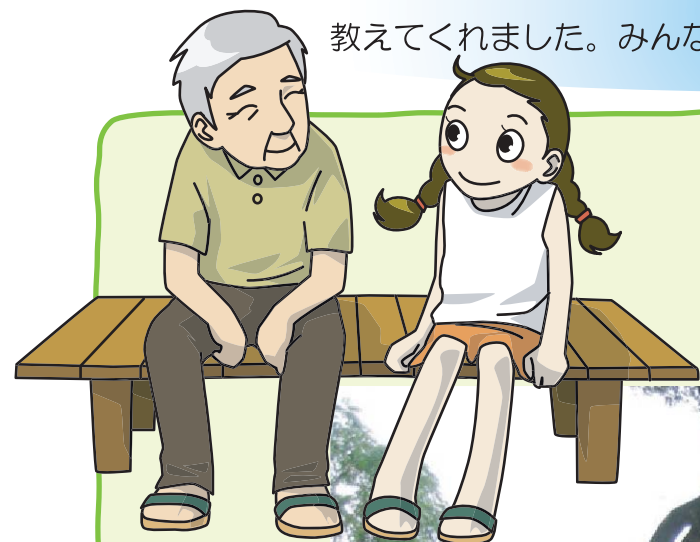
平成17年度  
第1号

(モニター会員番号 17005)

からの報告

「150本目のひばくじゅ木」

モニター仲間の坂田弥優さんが150本目のひばく樹木（被爆樹木）について  
教えてくださいました。みんなはひばく樹木のこと、知っているかな？



坂田弥優さんが、撮ってくれた  
150本目のひばく樹木の写真です！



151本目？のひばく樹木  
(おじいさんの家の月ヶじゅ)



送ってもらったひばく樹木の写真をみると、大きく曲がっている様子がよくわかるね。

ひばく樹木は、原ばくの中を生きぬいた樹木や焼けこげた樹木の下部から再び芽びいた木のこと、広島市が原ばくのことを忘れないようにと、認定して、保存しているんだ。

坂田弥優さんも書いてくれたように、ひとつの種から成長して、原ばくにも負けない木になるということは、すごいことだね。木にはものすごい生命力があるんだね。

坂田 弥優さんからのメール（平成17年8月15日）

### 「百五十本目のひばくじゅ木と百五十一本目？のひばくじゅ木」

2005.8.15 坂田 弥優

8月の始めマンションのうらにあるエノキの所でテレビの取材をしていました。何だろうと思っているとそのエノキが百五十本目のひばくじゅ木ににん定されたということでした。

いつも家のまどから見えている木がひばくじゅ木だったのでおどろきました。

その木は石がきとフェンスの間に立っています。

ここに昔から住んでいるおじいさんが言うには、石がきの上にあったヒイラギのかき根の所に鳥か風が運んだ種から芽が出て、それをぬくのがかわいそうで、そのままにしておいたらいつの間にか大きくなったそうです。

木が川に向かってななめになっているのは、たぶんばく風か火のえいきょうで、そうなったのではないかと  
も言っていました。そのうち川の方にたおれるのではないかと心配していました。

今も、川の中に残っている、かわらや石はばく風で飛ばされた家のものだそうです。

この木の近くに去年の台風で根元から折れて、たおれた木はひばくじゅ木ではなかったそうです。ひとつの種からこんなに長生きして原ばくにも負けない木になるのは、すごいことだと思いました。

この京橋川は前、もっと深く、川の砂も黄色っぽい黄土色をしていて、とてもきれいな川で、こちらの岸から向こう岸まで泳いで遊んだりしたそうです。

ほかの家では石がきより家を川に出して作って、家の中からつりができたそうです。「ぼら」が泳いでいたと聞いて、前にお姉ちゃん（坂田悠綺）が活動報告で出した「黒い大きな魚」は回答をもらったように「ぼら」だったのだと思いました。「泳いでいるのを見た」話をするとおじいさんは少しうれしそうでした。

このひばくじゅ木はまだ小さくて遊ぶことはできなかったそうです。

おじいさんは、本当はもうひとつひばくじゅ木があることを教えてくださいました。庭に植えてあった「月ヶじゅ」が残っているそうです。それは広島市にはお話してないそうです。広島のみちにはにん定されていない木がもっとあるのではと思いました。

むかしの太田川を見たいね！



### 比べてみよう！

広島市のホームページにはひばく樹木のリストがのっています。

([http://www.city.hiroshima.jp/s\\_himin/heiwa/jyumokulist.html](http://www.city.hiroshima.jp/s_himin/heiwa/jyumokulist.html))

自分の家の近くのひばく樹木を見に行くと、坂田弥優さんの報告してくれた木と比べてみよう！

### 報告ありがとう

坂田弥優さん、2回目の報告どうもありがとう！今回は近所のおじいさんに話を聞いて、メールを書いてくれたんだね。話を聞いた後は、いつも見ていた木なのに、ちがう木みたいに見えたのではないかな？おじいさんやおばあさんの話を聞くと、今まで知らなかった昔の話を聞くことができるよね。ほかのみんなも近くの川の生き物や風景について、おじいさんおばあさんに話を聞いてみよう。そしてぜひ、報告してね！

